

③1 草深の森から結縁寺 首都圏近郊に残る貴重な里山景観

【概要】印西市が地権者から借り受けて市民に開放している自然豊かな森と「日本の里100選」に選ばれた結縁寺周辺の里山風情

【森林の特徴と見所・歴史文化】

草深の森は面積9ha、標高約24mの平地林であり、地権者から印西市が借り受けて一般に公開している。この一帯は古くは小金牧の東端にあった印西牧惣深野と呼ばれた放牧地であり、林内に野間土手の跡が見られる。寛文10年に鋤入れされた惣深新田発祥の地として大日如来が祀られている。

林内はスギ、サワラの植栽樹、アカガシ、シラカシなどの常緑広葉樹、イヌシデ、クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹、モミの大木などが見られる。この付近は、田や畔、斜面林、鎮守の森のほか溜池など水辺環境も含む約76haの広さを持つ昔ながらの里山の景観を残す貴重な場所となっている。

結縁寺は神亀年間（724～28）僧行基がこの地を訪れ、天晴れる時井戸の中に白蓮が現れたのを見て、仏法がこの東の地に到達した霊地であるとし、一字を建立して晴天山と号したのが始まりとされている。国の重要文化財である銅作りの不動明王立像は毎年9月28日に開帳される。

又、ここは彼岸花の名所として印西八景の一つにも数えられている。この南東に位置するところに頼政塚という小祠がある。平家追討をめざし旗揚げした源頼政は自刃後、家臣によりここに埋葬されたとされる。さらにここから西方には、頼政の首を運んできた馬を葬ったとされる名馬塚がある。結縁寺のすぐ東には熊野神社と入定塚がある。入定塚は源頼政の死後350年以上もたった頃、伊勢の国から一人の女性が頼政の墓所を訪ねて来、ここで入定(仏教の悟りの境地に達する)したと伝えられる。

都会に近いこの地では、平地林と昔のままの里山風情を楽しむことができる。

【コース紹介】

草深の森駐車場①スタート。広場の分岐を左へ進み、大日塚の碑②に立ち寄る。時計回りに進むとスギ、サワラ林の針葉樹の森、クヌギ、コナラの広葉樹の森となり、シラカシの林を過ぎると広場を経て駐車場へ戻る。

車道を横断して右へ行き、団地の手前を左折すると気持ちの良い林内の道となる。突き当りを左折し道なりに進むと高架橋がありその下を行くと松崎台公園③に達する。公園を抜け、林縁沿いの道を行くと舗装路にあたる。この道では野草観察を楽しむことができる。

そこを左折し坂を上りきったところに源頼政伝説の頼政塚④がある。さらに進んで突き当りを右折し、しばらく進むと左側に頼政の首を運んだ馬を葬ったといわれる名馬塚⑤。少し戻って左折すると結縁寺への道。坂を下ったところに池があり、その奥に結縁寺⑥。道なりに少し行ったところに熊野神社と入定塚⑦がある。そのまま気持ちの良い里山の道を歩いていくと草深の森から来た道に出会うのでその道を引き返す。行程約6km。約3時間の歩程。

コースで見られる主な植物等

【木本類】

モミ、クロウメモドキ、ハシバミ、オオバクロモジ、オニシバリ、シラカシ、コナラ、スギ、ヒノキ、サワラ、アカガシ、クヌギ、イヌシデ、メダケほか

【草本類】

コ克蘭、コバノタツナミソウ、チゴユリ、カシワバハグマ、キンラン、ササバギンラン、ワニグチソウ、ジュウニヒトエ、ほか

【一口メモ】

2009年結縁寺とその周辺の里山は首都圏近郊に残る谷津として「日本の里100選」に選ばれた。この地が豊かな自然ばかりでなく、源頼政ゆかりの伝承の地であり、それらを地域の方たちが大切に守ってきた地として評価されたものである。



写真① 草深の森駐車場



写真⑤ 名馬塚



写真② 大日塚の碑



写真⑥ 結縁寺



写真③ 松崎台公園



写真⑦ 熊野神社と入定塚



写真④ 頼政塚

野外講座企画のための情報
FS 指数： 水平距離：6.3km 登高 86m
トイレ：草深の森駐車場、松崎台公園、結縁寺
昼食場所候補：松崎台公園、結縁寺
安全確保上の留意点：車道横断時通行車両に注意
交通：北総線印西牧之原駅より千葉レインボーバス高花バス
停下車3分で草深の森駐車場
近隣の見所：北総花の丘公園、草深ふれあいの里